

次期アクションプランの検討に係る
北九州 ESD 協議会 第 2 回運営委員会での主な意見

1 現アクションプランの成果と課題

①普及・啓発・発信

ESD と SDGs の関係性に関しては、SDGs を達成するための教育が ESD であるとシンプルに説明すればよい。

②企業

市内企業と学生の接点が少なく、企業の実践が知られていないことが重要な課題。優秀な学生が市内企業に就職することが北九州市の発展につながる。

2 次期アクションプラン概要

①全体

・ 2025 年（最終年度）の成果指標と、年度ごとのロードマップの設定が必要。

②アクションプランの方向性

- ・ 「個人や団体の成長 – SDGs17 目標との照合」を追加してほしい。
- ・ ウィズコロナにおいては、孤立や孤独を打ち破る必要がある。3つ目を「自立し、かつ相互につながる学びの環の広がり（「誰一人取り残さない」の追求）」に修正を。

③プランの柱

・ SDGs の 3 つの柱と 5 つの原則に照らすと、3 つの柱の「女性」、5 つの原則のうち「包摂性」（貧困、女性など）が薄いので、加味すべき。

○女性のさらなるエンパワメント（と次世代の育成）

– 女性が活躍しやすい環境づくり を追加してほしい。

・ 地域外との交流に関連して、「他の ESD 拠点や国連大学との交流促進」の追加を。

・ 北九州市の実践は Act Locally、まちの歴史を伝える実践が足りない。プランの柱に「地域の物語を発掘」を追加してほしい。